

CSR（南区相模大野）は、1970年代から2000年にかけて活躍した「日本マランツ」のDNAを引き継いだ電機メーカーです。04年に日本マランツの幹部社員が無線機事業を自分で買い取る「マネジメントバイアウト（MBO）」の形で独立しました。無線機事業を拡大する一方、少しずつ育ててきたハイエンドオーディオ事業では、23年6月に新会社「SOULNOTE（ソウルノート）」として設立。音を厳しくチェックするオーディオファンから高い評価を得ています。創業メンバーの一人で2代目社長である高梨和芳氏に話を聞きました。

「CSRとは『企業の社会的責任』の略です。印象的な社名ですね。」

「私たちが勤めていた日本マランツの前身は1946年に創業し、後にスタンダード無線工業を経て『日本マランツ』へと社名を変更しました。その後、欧州のフィリップスの傘下に入ってまた独立するなど、難しい歴史があります。最終的に米投資ファンド主導で事業が再編され無線機事業は撤退の方向でしたが、中にいる私たちは将来性があると考えてMBOで独立しました。CSRという社名は社員からの公募で、初代社長が決めました。会社は株主・取引先・社員などステークホルダーみんなのものだ、この思いがあったのだと思います」

「日本マランツは上場企業でした。無名の新興企業に転身するのは勇気が必要だったのではないですか。」

「最初は4人のメンバーでスタートし、その後、日本マランツから通信機の技術者十数名が合流しました。でも、



SOULNOTEの商品群

採算性には自信があり、実際に初年度から利益を出し無借金経営でした。それまでの設備や販路が使い、大きなOEM供給先も決まっていたから。事業を軌道に乗せながら少しずつ人を増やし、旧・日本マランツの仲間が集まってきた

日本マランツのDNAで成長

ハイエンドオーディオで新会社

「独立当初はOEM製品を開発製造し、2020年には米モトローラ・ソリューションズ社と日本における総代理店契約を結びました。無線通信機器の強みは高いセキュリティと多数の端末で通信できることで、防災

「無線機器事業はライナップが豊富です。」

「独立当初はOEM製品を開発製造し、2020年には米モトローラ・ソリューションズ社と日本における総代理店契約を結びました。無線通信機器の強みは高いセキュリティと多数の端末で通信できることで、防災



（株）CSR
代表取締役 **高梨 和芳**さん

など確実な通信が必要な分野で使われています。インターネット技術と融合し広域通信が可能な『LTE無線』はモトローラ、日本市場に最適化したモデルは自社開発製品でカバーしていきます」

「ハイエンドオーディオ事業の新会社も設立しました。」

「06年にオーディオブランド『SOULNOTE』を立ち上げました。『音作り』はせず、音源に込められた『すべて』を引き出す事を開発理念としています。常

識にとられない独自設計で開発したオーディオ製品は、専門誌で高く評価いただき、6年連続でグランプリを受賞しています。現在、ハイエンドクラスからエントリークラスまでの幅広い製品群で人気となっています。新会社設立により、『SOULNOTE』はイベントなどに積極的に参加していきます。さらに海外市場も強化し、CSRとしてオーディオ部門の売り上げ比率を拡大していきます」

「今後の目標は。」

「独立した時は年商30億円を目指していましたが、現在は50億円を目標にしています。今後はまだ比率の小さいオーディオ事業を伸ばし、次の目標を設定し、いつの日か上場企業に戻れたらよいと考えています」